関西自然保護機構会誌 *26*（*2*）：*139－140, 2004*

水田で捕獲されたウシガエルの胃内容物

愛媛大学農学部附属農場　平　井　利　明

Stomach contents of a bullfrog, *Rana catesbeiana*, captured in rice fields. Toshiaki Hirai（*University Farm, Faculty of Agriculture, Ehime University, Ehime 799-2424, Japan*）

I report the stomach contents of the exotic bullfrog *Rana catesbeiana* captured in ricefields of Nose, Osaka, Japan. Two tadpoles of *Hyla japonica*, three dragonfly nymphs, and one pond snail were found in a stomach. The bullfrog was an adult female of 167.0㎜ in SVL. This is the first record of predation by a bullfrog on Japanese native anurans.

人為的移入によるウシガエル（*Rana catesbeiana*）の分布拡大は，捕食や種間競争などの影響によって在来カエル個体群の衰退を引き起こしている可能性が指摘されている（Kiesecker 2003の総説を参照）。しかしながら日本国内では，種間競争はおろか，直接的な捕食による影響を推定するのに必要な捕食例さえ十分に得られていないのが現状である。今回，日本国内で初めてとなる在来のカエル類の捕食例が得られたので，ここに報告する。

2003年７月27日20時30分頃，大阪府豊能郡能勢町野間中の水田で捕獲したウシガエル雌成体（頭胴長167.0㎜）の胃内容物を腹部切開によって取り出したところ，マルタニシ（*Cipangopaludina chinensis laeta*）１個体（図１Ａ），カエル類幼生２個体とトンボ類幼虫３個体が含まれていた。カエル類幼生は２個体とも体表面や尾部がかなり消化されていたこともあり（図１Ｂ，Ｃ），同定が困難であった。そこで幼生の歯式を調べたところ，どちらも１：１＋１／３であった。これと歯式が一致するのは，日本産カエル類ではニホンアマガエル（*Hyla japonica*）とヌマガエル（*Ranalimnoc haris*）だけであるが（前田・松井，1999を参照），採集地及びその近隣の水田にはヌマガエルは分布していなかったので，捕食されていたのはニホンアマガエルの幼生であると考えられた。また，トンボ類幼虫はショウジョウトンボ（*Crocothemis servilia mariannae*）かコシアキトンボ（*Pseudothemis zonata*）（いずれもトンボ科 Libellulidae）のどちらかと思われる終齢幼虫の腹部の断片（図１Ｄ）が１個体分と，ギンヤンマ（*Anax parthenope*

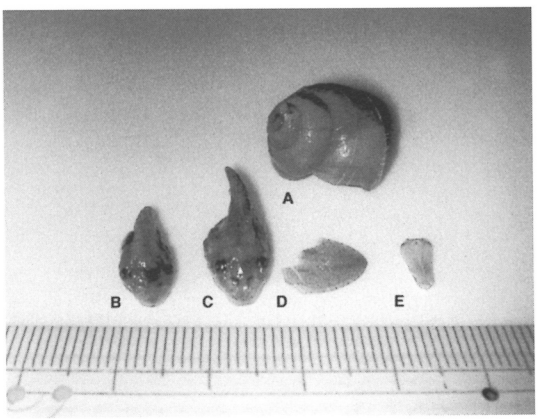


図１． ウシガエルの胃から検出されたマルタニシ（Ａ），ニホンアマガエル幼生（Ｂ，Ｃ），トンボ科幼虫の腹部断片（Ｄ）とギンヤンマ終齢幼虫の下唇鰓（Ｅ）．

julius；ヤンマ科 Aeschnidae）の中齢期後期の下唇鰓（図１Ｅ）及び側棘や肛錐が１個体分，さらにもう１個体分の同種中齢期中期の下唇鰓が認められ，合計３個体が捕食されていたと考えられた（石田ほか 1998を参照）。

トンボ類幼虫の同定をして下さった石田昇三氏（トンボ資料室「蜻蛉庵」），ならびに同定に協力して下さった桑原英夫氏（大阪昆虫同好会）に感謝致します。

引用文献

石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊．1998．日本産トンボ幼虫・成虫検索図説，第６版．東海大学出版会，東京．

Kiesecker, J. M. 2003. Invasive species as a global problem : toward understanding the worldwide decline of amphibianns. In : Amphibian Conservation（ed. Semlitsch, R. D.）, 113-126. Smithsonian Books, Washington and London.

前田憲男・松井正文．1999．日本カエル図鑑，改訂版．文一総合出版，東京．